

# 線形常微分方程式とラプラス変換

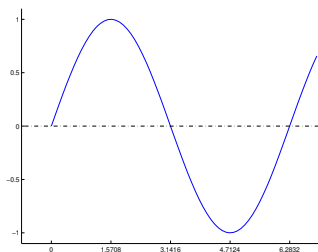
## 自然科学への扉 C

# 線形常微分方程式とラプラス変換

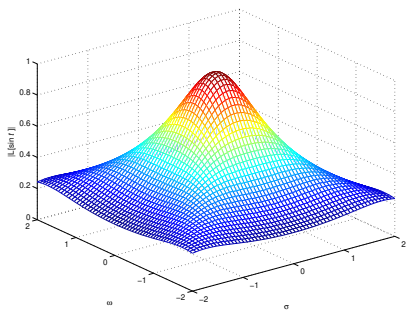
自然科学への扉 C

- 12 / 24 なぜラプラス変換を考えるのか  
動的なシステムのモデリング
- 01 / 07 ラプラス変換の定義  
基本的な関数のラプラス変換
- 01 / 14 ラプラス変換の性質
- 01 / 21 ラプラス変換と微分方程式
- 01 / 28 ラプラス変換と微分方程式

# ラプラス変換の定義



$\sin t$



$|\mathcal{L}[\sin t]|$

# ラプラス変換の定義

定義: ラプラス変換

時間関数  $x(t)$ ,  $t \geq 0$  (ただし  $t < 0$  の時は  $x(t) = 0$  とする) のラプラス変換をつぎで定義する.

$$X(s) = \mathcal{L}[x(t)] = \int_0^{\infty} x(t)e^{-st} dt$$

$x(t)$ : 時間関数

$X(s)$ :  $x(t)$  のラプラス変換

$s$ : 複素数  $s = \sigma + j\omega$

より正確には  $\mathcal{L}_-[x(t)] = \int_{0-}^{\infty} x(t)e^{-st} dt = \lim_{\substack{\epsilon \rightarrow 0 \\ \epsilon > 0}} \int_{-\epsilon}^{\infty} x(t)e^{-st} dt$

# 注意

## ラプラス変換の定義

本来なら関数  $x(t)$  のラプラス変換を表す記号

$$X(s) = \mathcal{L}[x(t)] \qquad \tilde{x}(s) = \mathcal{L}[x(t)]$$

- 記号が煩雑になる
- 関数  $x(t)$  を考えているのか, あるいはそのラプラス変換  $x(s)$  を考えているのかは, 前後の文脈から明らか

あえて  $x(s) = \mathcal{L}[x(t)]$  のように表記する.

# ラプラス変換の定義

$$x(s) = \mathcal{L}[x(t)] = \int_0^{\infty} x(t)e^{-st} dt$$

$t$ : 時間 (実数)

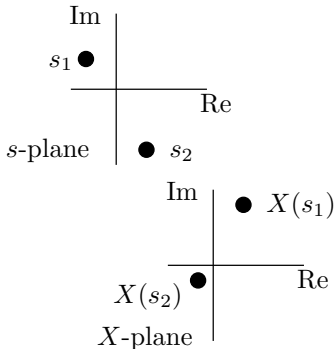
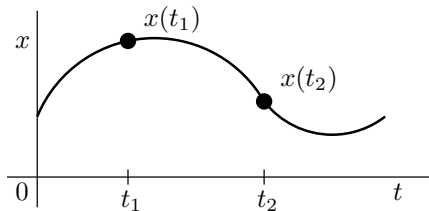
$x(t)$ : 各  $t$  に対して  $x(t)$  は実数

$s$ : 複素数  $s = \sigma + j\omega$

$x(s)$ : 各  $s$  に対して  $x(s)$  は複素数

ラプラス変換:  $\mathcal{L}[\cdot]$

$\Rightarrow$

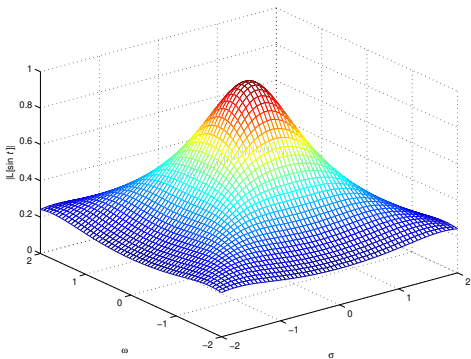


# ラプラス変換の定義

例えば,  $|x(s)|$  ならグラフにできる

例題:  $\sin t$       $x(t) = \sin t$       $x(s) = \mathcal{L}[\sin t] = \frac{1}{s^2 + 1}$

$$|x(s)| = |x(\sigma + j\omega)| = \frac{1}{\sqrt{(\sigma^2 - \omega^2 + 1)^2 + 4\omega^2}}$$



$$|\mathcal{L}[\sin t]|$$

# ラプラス変換の定義

$$x(s) = \mathcal{L}[x(t)] = \int_0^{\infty} x(t)e^{-st} dt$$

- すべての時間関数  $x(t)$  がラプラス変換可能なわけではない (どんな複素数  $s$  を考えても, 積分が収束しない)
- ラプラス変換可能な関数  $x(t)$  でも, すべての複素数  $s$  について積分が収束するわけではない
  - ラプラス変換の収束領域:  $\operatorname{Re}[s] > \alpha$



# ラプラス変換の定義

$$x(s) = \mathcal{L}[x(t)] = \int_0^{\infty} x(t)e^{-st} dt$$

- すべての時間関数  $x(t)$  がラプラス変換可能なわけではない (どんな複素数  $s$  を考えても, 積分が収束しない)
- ラプラス変換可能な関数  $x(t)$  でも, すべての複素数  $s$  について積分が収束するわけではない
  - ラプラス変換の収束領域:  $\operatorname{Re}[s] > \alpha$
- 多くの関数 (指数オーダーの関数) がラプラス変換可能
- ラプラス変換の利用 (微分方程式を解く際に) 収束領域を陽に考慮する必要はない
  - ラプラス変換には, 深い理論があります. ぜひ, 参考図書に目をとおしてください.

# 線形常微分方程式とラプラス変換

## 自然科学への扉 C

- 12 / 24 なぜラプラス変換を考えるのか  
動的なシステムのモデリング
- 01 / 07 ラプラス変換の定義  
基本的な関数のラプラス変換
- 01 / 14 ラプラス変換の性質
- 01 / 21 ラプラス変換と微分方程式
- 01 / 28 ラプラス変換と微分方程式

# 基本的な関数のラプラス変換

$$x(s) = \mathcal{L}[x(t)] = \int_0^{\infty} x(t)e^{-st} dt$$

ステップ関数:  $u(t) = \begin{cases} 1 & t \geq 0 \\ 0 & t < 0 \end{cases}$

$$\mathcal{L}[u(t)] = \frac{1}{s}$$

収束領域:  $\operatorname{Re}[s] > 0$

## 基本的な関数のラプラス変換

$$x(s) = \mathcal{L}[x(t)] = \int_0^{\infty} x(t)e^{-st} dt$$

指数関数:  $e^{-at}$  ( $a > 0$ )

$$\mathcal{L}[e^{-at}] = \frac{1}{s+a}$$

収束領域:  $\text{Re}[s] > -a$

## 基本的な関数のラプラス変換

$$x(s) = \mathcal{L}[x(t)] = \int_0^{\infty} x(t)e^{-st} dt$$

正弦関数:  $\sin \omega t$

$$\mathcal{L}[\sin \omega t] = \frac{\omega}{s^2 + \omega^2}$$

オイラーの公式:  $e^{j\omega t} = \cos \omega t + j \sin \omega t$

$$\sin \omega t = \frac{1}{2j}(e^{j\omega t} - e^{-j\omega t}) \quad \cos \omega t = \frac{1}{2}(e^{j\omega t} + e^{-j\omega t})$$

# 基本的な関数のラプラス変換

$$x(s) = \mathcal{L}[x(t)] = \int_0^{\infty} x(t)e^{-st} dt$$

余弦関数:  $\cos \omega t$

$$\mathcal{L}[\cos \omega t] = \frac{s}{s^2 + \omega^2}$$

オイラーの公式:  $e^{j\omega t} = \cos \omega t + j \sin \omega t$

$$\sin \omega t = \frac{1}{2j}(e^{j\omega t} - e^{-j\omega t}) \quad \cos \omega t = \frac{1}{2}(e^{j\omega t} + e^{-j\omega t})$$

# 基本的な関数のラプラス変換

$$x(s) = \mathcal{L}[x(t)] = \int_0^{\infty} x(t)e^{-st} dt$$

ランプ関数:  $r(t)$

$$r(t) = \begin{cases} t & t \geq 0 \\ 0 & t < 0 \end{cases}$$

$$\mathcal{L}[r(t)] = \frac{1}{s^2}$$

部分積分:

$$\int_a^b f(x) \dot{g}(x) dx = [f(x)g(x)]_a^b - \int_a^b \dot{f}(x)g(x) dx$$

# ラプラス変換の定義

$$x(s) = \mathcal{L}[x(t)] = \int_0^{\infty} x(t)e^{-st} dt$$

インパルス関数:  $\delta(t)$

$$\int_{-\infty}^{\infty} \delta(t) dt = 1 \quad \delta(t) = 0 \quad (t \neq 0)$$

$\delta(t)$  の性質:  $\int_{-\infty}^{\infty} f(t)\delta(t) dt = f(0)$  ( $f(t)$ : 時間関数)

$$\mathcal{L}[\delta(t)] = 1$$



# 線形常微分方程式とラプラス変換

## 自然科学への扉 C

- 12 / 24 なぜラプラス変換を考えるのか  
動的なシステムのモデリング
- 01 / 07 ラプラス変換の定義  
基本的な関数のラプラス変換
- 01 / 14 ラプラス変換の性質
- 01 / 21 ラプラス変換と微分方程式
- 01 / 28 ラプラス変換と微分方程式